

2022（令和04）年度 東北アジア研究センター共同研究報告書

提出 2023（令和5）年5月19日

代表者 田村光平

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	和文) 東北大学考古学研究室所蔵発掘報告書のデジタルアーカイブ構築 英文) Development of a digital archive of archaeological artifacts			
研究期間	2021（令和3）年度 ～ 2022（令和4）年度（2年間）			
研究領域	(D) 自然・文化遺産の保全と継承			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	田村光平	学際科学フロンティア研究所/東北アジア研究センター・准教授	人文情報学	アーカイブ構築・取りまとめ
	佐野勝宏	東北アジア研究センター・教授	考古学	資料・メタデータ整理
	高倉浩樹	東北アジア研究センター・教授	生態人類学	デジタルアーカイブ設計
	藤澤敦	学術資源研究公開センター・教授	考古学・博物館学	デジタルアーカイブ設計
	鹿又喜隆	大学院文学研究科・教授	考古学	資料・メタデータ整理、デジタルアーカイブ設計
研究経費	学内資金	センター長裁量経費 300,000 円		
	外部資金（科研・民間等）		[小計]	
	合計金額	300,000 円		
研究の目的と本年度の成果の概要 （600-800 字の間で専門家以外にも理解できるようにまとめてください。）	<p>本研究では、東北大学考古学研究室がこれまで刊行してきた発掘報告書をベースに、デジタルアーカイブを構築する。対象として、東北アジア地域との関連の強い、石刃・細石刃が出土している遺跡を選定する。考古学において、情報共有の主要な方法は発掘報告書である。報告書そのもののオンラインでの公開も進みつつあるが、海外の研究者や、非専門家も含めた幅広い主体による利活用のためには、発掘報告書と相補的な役割を果たすデジタルアーカイブの構築が有効だと考える。本研究では、(1) 海外も含めた専門家に対して、発掘報告書と相補的で、研究目的で活用しやすい情報を提供すること、及び (2) 非専門家がより自由に、望む情報にアクセスできる状況を作ることをめざす。作成したデジタルアーカイブは、東北アジア研究センターの地域研究デジタルアーカイブで公開する。</p> <p>今年度は、地域研究デジタルアーカイブにて、高倉山遺跡の発掘調査に関連する写真を公開した。また、昨年度作成した VR ツアーは、115 周年記念事業に関連して制作された、片平キャンパスの登録有形文化財の VR ツアーの一部として組み込まれた。また、文化財収蔵庫のものを中心として、考古学研究室が所蔵する考古資料の写真撮影もおこなった。こ</p>			

	れらは、2023 年度中に、地域研究デジタルアーカイブへの格納をおこなう。同時に、これまで制作したデジタルアーカイブや VR ツアーの広報的な活動にも取り組む。		
本年度の活動における東北アジア地域研究としての意義についてアピール	今回公開した高倉山遺跡の資料は、東北アジア地域の環境適応や技術の拡散の手がかりとなるものである。また、今回撮影した資料には、さまざまな時代での、東北アジア地域での文化交流の情報源となる資料が含まれている。		
研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など：0 回	国際会議： 0 回	
	研究組織外参加者（都合）： 人	研究組織外参加者（都合）： 人	
研究成果	学会発表（0）本	論文数（0）本	図書（0）冊
専門分野での意義	[専門分野名] 考古学	[内容]	
学際性の有無	[有]	参加した専門分野数：[2] 分野名称[考古学・人文情報学]	
文理連携性の有無	[有]	特筆事項：情報技術をもちいた考古資料の公開	
社会還元性の有無	[有]	[内容] デジタルアーカイブや VR ツアーが公開された場合、愛好家を含む非専門家であっても、考古資料にアクセスできる。	
国際連携	連携機関数： 0	連携機関名：	
国内連携	連携機関数： 0	連携機関名：	
学内連携	連携機関数： 0	連携機関名：	
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数： 1	参加学生・ポスドクの所属：文学研究科	
第三者による評価・受賞・報道など			
研究会計画全体の中での当該年度成果の位置づけと今後の課題	計画通りに、高倉山遺跡に関連する写真を、地域研究デジタルアーカイブで公開することができた。今後、今年度に撮影した写真をコレクションとして地域研究デジタルアーカイブに登録するとともに、多くの人に活用いただけるように、広報活動をおこなっていく必要がある。とくに、博物館の学芸員や、一般の考古学ファンなど、学会等に所属していない層に情報を届ける方法について考える必要がある。		
最終年度	該当 [有]		

本共同研究に関わる業績（発表予定含む）
[学会発表]
[雑誌論文]
[その他]

*ファイル名は KyodoRpt_年度_代表者ローマ字とする。二つある場合、代表者名の後に 1, 2 と記入する（例 KyodoRpt_2013_oka1）。